

# へきけんニュース

ホームページ [https://www.hokkyodai.ac.jp/edu\\_center\\_remoteplace/](https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/)  
メールアドレス [kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp](mailto:kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp)  
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



写真は北海道教育大学釧路校

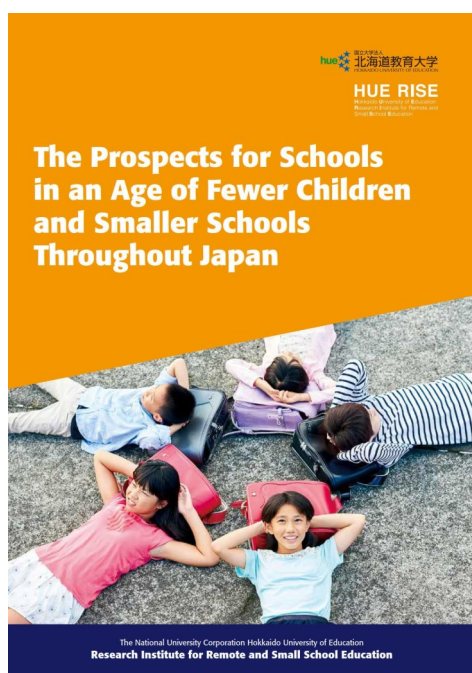
## 日本のへき地・小規模校教育研究に関する 国際的期待に応えるために！

開発途上国から、国際的評価が高い日本のへき地指導方法の研修オファーが増えています。

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

### 1 英語版リーフレットを発行しました

過日、北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター紹介用リーフレットの英語版リーフレットを発行しました。このリーフレットは、国際的な期待がへき地・小規模校教育研究センターに高まる中で、国際共通語としての英語でへき研センターを紹介し、今後も多くの国際的なへき地教育関係者に存在意義を広めていくためのものです。これを様々な国からの問い合わせに活用しています。

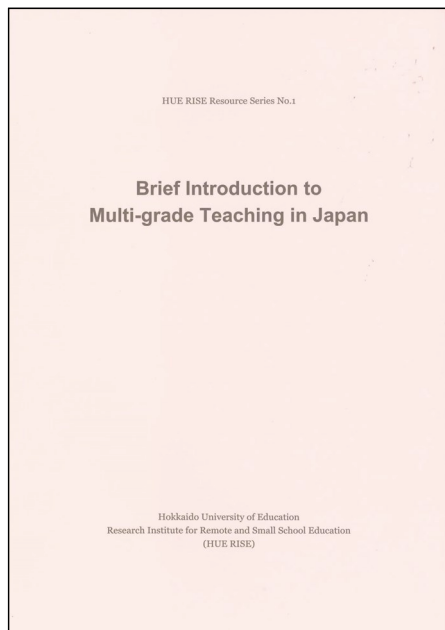


▲リーフレット「全国的な少子化・小規模校化時代の学校の展望」(英語版・日本語版)

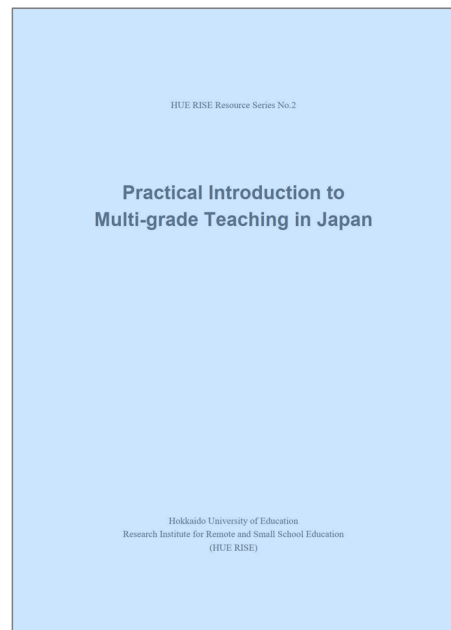
これまでも、「へき地・複式・小規模校教育の手引-学習指導の新たな展開」の英語版を「HUE RISEリソースシリーズNo1」「HUE RISEリソースシリーズNo2」として発行してきました。これら「HUE RISEリソースシリーズ」も世界のへき地教育関係者からアクセスされています。へき研センターホームページに英語版をアップしていますので、こちらをご覧ください。



▲日本語版「へき地・複式・小規模教育の手引」



▲英語版「HUEシリーズ No.1」



▲英語版「HUEシリーズ No.2」

## 2 国際的な開発途上国に果たす日本のへき地教育の役割

北海道教育大学は様々な外国と連携し、国際社会貢献を推進しています。その中で開発途上国を中心とした、へき地・小規模校教育の国際社会貢献も大きな期待が寄せられています。近年では、アラスカおよび中南米・東南アジア・台湾・中国などの地域から、日本のへき地校視察や研修依頼のオファーが入ってきています。また英語圏のへき地教育研修団も日本のへき地教育を学ぶために、へき地・小規模校教育研究センターに研修依頼や問い合わせが入って来ます。

このように国際社会からの日本のへき地教育への関心が高まる中で、英語版のへき地教育リーフレットは、「北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター」の存在意義とへき地教育研究成果を広く海外に発信し、日本のへき地教育研究を世界に伝播することを目的としたものです。

## 3 日本の教育指導方法・内容を基盤にした高度な日本のへき地教育

日本のへき地・小規模校教育は、義務教育の基本的指導方法が確立しているために、指導方法の水準が高いといわれています。例えば、一般的な授業の中でも、課題提示→問題発問→仮説→指示・説明→グループワーク→発表→まとめ→ふり返り、などの流れや授業の要素が明確です。教師は発問や説明を繰り返しながら、明らかにすべき課題および答えを子供達に考えさせるように、教師が導いていきます。

## 4 国際的に見て水準の高い日本の複式指導方法と間接指導

日本の複式指導においても、異学年間の「わたりとずらし」を行いながら、複数学年においても単式と同じような指導を進めていくことができるようにしています。このような日本の複式学習指導方法は、複式指導の定番として、世界で確固たる評価を得ています。

この複式学習指導における日本の間接指導は、学習リーダー等を中心にしなが、自分達で授業を進めていきます。すなわち間接指導時は自立型学習活動として、自分達で学習を進める授業



運営の方法と、自ら学ぶ姿勢を養えるように指導しています。このように、日本の複式教育は間接指導、リーダー学習、ガイド学習等、独自の方法を開発している点が評価されています。

## 5 自立型学習活動を発展させる日本の複式教育と個別最適化教育

自立型学習活動を進める要素としては、次の様な授業運営を子供達自身でできるように指導していきます。例えば、「前時の確認」「めあての確認」「教科書輪読」「体験的活動」「一人思考・問題解答」「解答合わせ」「グループ討論」「発表」「まとめの確認」などの授業展開も、自分達で運営します。

子供達が自分達で授業を進められる習慣がつけば、教師が細かく逐一発問・指示をしなくても、子供達で判断・進行しながら、それを見た教師が逐次アドバイスする展開が可能です。このようなことが自分達でできるように、あらかじめ教師が自立的な授業運営方法を指導をして、自立した学習活動ができるように促していきます。へき地校で教師の指導を子供に任せやすいのは、やはり少人数であるため、すべての子供の活動・思考が見えるからです。

## 6 全員参加型の授業運営を意識的に行う日本のへき地校

全員参加型の授業ができやすいのも、少人数だからです。発言者を選んで授業を展開するよりも、全員の発言を指導することができます。少人数であれば、必ず全員が1日や1週間の中で発言・発表するような全員参加型の授業を展開することが可能です。実際に日本のへき地校では、全員参加型の授業運営を行う学校がほとんどです。さらに授業時間内外のノート指導・個別添削などで個別指導を補完できます。すなわち子供達が自分達で学びながら、同時に教師が個々の子供に応じた個別最適化教育を進めることができます。

## 7 世界的なコロナ禍で求められる少人数でのICT活用教育と遠隔双方向教育

少人数の学級では、ICTによる全員画面交流・ICTによる探究的な活動・ICTによる個別学習活動・ICTによる集団思考等を進めやすくなります。ICTを活用しやすいので、一方浮いた時間を活用して協働的な学習時間を増やすことができます。

またへき地性を克服する遠隔双方向教育も進められてきましたが、この遠隔双方向教育も世界の開発途上国で同じ課題を抱えています。タイのへき地校では、全教科全単元をオンデマンドで配信する方式を進めています。これらについても、今後へき地・小規模校のマイナス面を補い、プラス面を発展させるへき地・小規模校型ICT教育の国際的な交流が期待されています。

## 8 JICAからの日本のへき地教育への注目とSDGsに向けた教育支援

国連が掲げる世界的なSDGsの目標達成のために、JICAは、日本のへき地教育による国際社会貢献を推進したいと考えています。そのため、北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター



▲ラオス教員養成大学校研究協議



▲ラオス教員養成大学校

にもJICAからのオファーがあります。北海道教育大学では、JICAへき地教育研修訪日団を毎年受け入れています。そのたびに、開発途上国で日本のへき地教育への関心が高まり、さらにへき研センターに協力依頼が寄せられて来ています。

東南アジアのラオスでも、北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターの発行している「へき地・複式・小規模教育の手引-学習指導の新たな展開」がラオスの教育省で紹介され、ラオス各県教育委員会で日本の指導方法が奨励されています。

## 9 アラスカ大学のへき地教育研究との交流

北海道教育大学は、姉妹大学でもあるアラスカ大学のANKN(Alaska Native Knowledge Network)のへき地教育研究センターとも毎年交流してきました。アラスカのへき地校では、無学年制教育、先住民族教育、地域プロジェクト総合学習なども盛んなので、これらのへき地教育の指導方法についても、アラスカ大学とへき地・小規模校教育研究センターとが交流を進めています。



▲アラスカ大学教員とのへき地教育協議



▲アラスカのへき地校のプロジェクト学習風景

## 10 へき研センターの国際的使命を果たす一環として、『へき地・複式・小規模校教育の手引-学習指導の新たな展開』の完全英訳版を作成しました。

近年海外からのへき地教育に関する問い合わせが増えてきました。とりわけ開発途上国では、へき地・小規模校教育研究センターの研究蓄積に注目が集まっています。へき研センターには、様々な国から視察や研修講師依頼が来ます。そのため、海外にもへき研センターの役割を果たすために、上記の『へき地教育手引』の英訳版を作成しました。

この英訳版は、HUE RISE (Hokkaido University of Education Research Institute for Remote and Small School Education) リソースシリーズで、下記の2冊を刊行しています。

◎1回目はHUE RISE Resource Series No.1 “Brief Introduction to Multi-Grade Teaching in Japan”

◎2回目はHUE RISE Resource Series No.2 “Practical Introduction to Multi-grade Teaching in Japan”

今後この英語版手引が、開発途上国をはじめ多くの国で活用されることを期待しています。

## 11 世界に発信するへき地・小規模校教育研究センター

世界各国の中でも、へき地・小規模校教育の専門施設を持っている大学は少なく、このような中で、日本のへき地教育の水準の高さに注目が集まっています。今後も、日本のへき地・複式・小規模校教育から学ぼうとする世界の研究者からの要望に応じていきたいと思えます。

へき地・小規模校教育研究センターで発行しているHUE RISE Resource Series No1「Brief Introduction to Multi-grade Teaching in Japan」、および同Resource Series No2

「Practical Introduction to Multi-grade Teaching in Japan」も、国際社会への期待に応えるために刊行したもので、へき研センターホームページにも掲載しています。海外在住の方々に日本のへき地教育を紹介する場合に、併せてご活用願います。